

テエタ

[teeta]

49



公益財団法人
北海道埋蔵文化財センターだより

- 令和4年度の発掘調査…………… 2, 3
- 令和4年度発掘調査一覧…………… 3
- 令和5年度道立埋蔵文化財センター企画展・講演会・
考古学講座一覧…………… 4
- 令和5年度発掘調査予定一覧…………… 4

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



板綴舟の部材である舟敷の出土状況と一緒にみつかった漆器など（松前町福山城下町遺跡 近世）

【表紙解説】

16世紀後半～17世紀初頭の沢状地形から出土した板綴舟（イタオマチブ）の舟敷（ふなじき）です。板綴舟は丸木舟の両舷（げん）に板を一、二段綴じ付け、耐波性と積載量を増した準構造船で、丸木舟部分を舟敷とよびます。

出土した舟敷は、長軸両端と一方の舷が破損していましたが、長さ約3m、幅約50cm、厚さ約4cmです。残存する舷には、22か所の孔が等間隔にあけられており、一部の孔には舟敷と板を綴じ付けるための縄が見られます。舟敷の上には口縁部の欠けた漆塗椀が伏せてあり（写真右下）、その内側からアワビの貝殻が見つかりました。

○令和4年度の発掘調査

ちとせ びび
○千歳市美々4遺跡

盛土遺構 調査の様子

にき
○仁木町モンガクC遺跡

調査の様子

はこたて
○函館市サルカイ遺跡

緩斜面での調査状況

遺跡は千歳市の南端、美沢川の左岸にあたる標高7～9mの緩斜面上に立地し、新千歳空港用地内にあります。

空港誘導路複線化事業に伴う調査は2年目で、調査区は昨年度の西側に接しています。面積は640㎡で、南北に長い長方形の範囲は比高約6mの斜面にあたります。

遺構は盛土遺構や土坑、焼土、柱穴状の小ピットに加えて、土器や獣骨などの集中も数多く見られました。特に盛土遺構は調査区の北東隅でその一部が確認され、縄文後期末の遺物が数多く出土しました、また、その下部からは人骨を伴う2基の土坑墓も確認されました。

遺物は縄文時代後・晩期の土器を中心に、石鏃を主とした石器群と各種製品も出土しました。中でも耳栓やヒスイ製玉など装飾品が多く見られるのも特徴です。

遺跡は、JR函館本線仁木駅から東方向に約1km、冷や川(余市中の川)の右岸に位置します。今年の調査区は北方向へ傾斜する標高10～16mの斜面部と、昨年度調査した低位部の一部です。

遺構は縄文時代中期の土坑1基、続縄文時代後半期の土器集中1か所、縄文時代と推定する焼土2か所と礫集中が2か所です。遺物は、土器は縄文時代中・後期と続縄文時代のもの、剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、石錐、スクレイパー、礫石器は磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、台石です。黒曜石は小さな白色の粒(球顆)が筋状に多数みられる赤井川原産が多く、原石や石核もみられることから、黒曜石を用いた石器の製作に関わる遺跡と考えられます。

遺跡は、^{とどほっけ}楳法華支所(旧楳法華村役場)から南東へ直線距離で約0.8km、海岸段丘を開析する番屋川左岸の標高45～60mの緩斜面上に立地しています。

調査は調査区内の遺構・包含層の詳細な分布を確認するために、人力により4×4mの発掘区20か所の表土層を掘り下げて行いました。

その結果、調査区内の一部に沢地形または大型遺構が存在する可能性と、遺物を含む包含層の広がり確認できました。

まつまえ ふくやまじょうかまち
○松前町福山城下町遺跡



遺物出土状況

調査区は松前町字唐津にあり、福山城跡から南西へ300～400mの海岸部に立地し、近世に唐津内町とよばれました。検出した遺構は礎石、炉、土坑等が約50か所、遺物は陶磁器、金属製品、木製品等が約2万7,000点出土しました。遺構・遺物は城下町が営まれた時期のものと、城下町建設以前のものにと大別できます。前者のなかでは、鍛冶炉、鍛造剥片、坩堝、鞆羽口、鉄滓といった金属製品の生産に関連する資料や、16世紀後葉の中国産磁器がまとめて出土したことが注目されます。一方後者では、16世紀後半～17世紀初頭の沢状地形から、木製品を中心とする遺物が数多く得られました。木製品には漆塗椀、曲物把手、桶側板、下駄等の和産物や、アイヌ文化に特徴的な板綴舟の舟敷、捧酒箸等が見られます。

おびひろ くうこうみなみ
○帯広市空港南A遺跡



調査の様子

遺跡は、帯広駅から南に22km、とち帯広空港の南側に位置します。恵庭a・支笏第1テフラの二次的な堆積作用によって形成された内陸古砂丘上に立地しています。遺構・遺物はすべて旧石器時代のもので、恵庭aテフラの古砂丘上からは有舌尖頭器を含む石器群が検出されました。炉とみられる炭化物集中の周りからは尖頭器の仕上げの加工で打ち欠かれた多くの黒曜石製の小型剥片、少量の黒曜石製搔器やメノウ・頁岩製の彫器・彫器削片、顔料・台石など合わせて1万数千点が出土し、炉の周辺で作業を行った様子が想像されます。

支笏第1テフラの古砂丘上からは炭化物集中1か所とその周辺から黒曜石製の小型剥片や泥岩製の石核など10数点が出土しています。

○令和4年度発掘調査一覧

事業者		事業名	市町村	遺跡名	面積(m ²)	備考
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	新千歳空港誘導路複線化事業	千歳市	美々4	640	
	小樽開発建設部	一般国道5号俱知安余市道路(共和-余市)	仁木町	モンガクC	2,090	
北海道	渡島総合振興局	火山砂防工事	函館市	サルカイ遺跡	320	
		道路改良工事	松前町	福山城下町遺跡	531	
その他	帯広市	滑走路端安全区域整備事業	帯広市	空港南A遺跡	1,380	
合計					4,961	

○令和5年度道立埋蔵文化財センター企画展・講演会・考古学講座一覧

企画展

(1) 「(公財) 北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査成果展」

会期：令和5年3月25日(土)～5月28日(日)

(2) 「北海道・北東北の縄文遺跡群2展」(仮)

会期：令和5年7月8日(土)～9月24日(日)

(3) 「北海道遺跡百選16—北海道埋蔵文化財センターの調査から—」展(仮)

会期：令和5年12月2日(土)～令和6年2月25日(日)

講演会

(1) 「(公財) 北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査報告会」

日時：令和5年4月15日(土) 13:30～15:30

講師：(公財) 北海道埋蔵文化財センター職員

(2) 秋季講演会「縄文から弥生・続縄文へ2」

「東北地方における縄文文化から弥生文化」

日時：令和5年9月16日(土) 13:30～15:30

講師：斎野 裕彦氏(元仙台市教育委員会)

(3) 冬季講演会「縄文から弥生・続縄文へ4」

「道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」

日時：令和6年1月20日(土) 13:30～15:30

講師：熊木 俊朗氏(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

考古学講座

(1) 「縄文から弥生・続縄文へ1」 「中央高地の縄文文化から弥生文化—石器の移り変わりを見る当時の生活と地域間交流—」

日時：令和5年5月27日(土) 13:30～15:30

講師：馬場 伸一郎氏(長野県教育委員会事務局 文化財専門員)

(2) 「キーワードで読み解く北海道北東北の縄文遺跡群2」 「北海道・北東北の貝塚」

日時：令和5年7月22日(土) 13:30～15:30

講師：福井 淳一氏(公益財団法人北海道埋蔵文化財センター主査)

(3) 「縄文から弥生・続縄文へ3」

「道央部の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」

日時：令和5年11月18日(土) 13:30～15:30

講師：鈴木 信氏(公益財団法人北海道埋蔵文化財センター常務理事)

(4) 「縄文人に挑戦」

日時：令和5年10月28日(土) 13:30～15:30

講師：普及活用課職員

(5) 「比べてわかる道内の竪穴群2」

「北東アジアの集落遺跡と北海道東部の竪穴住居跡群」

日時：令和6年3月16日(土) 13:30～15:30

講師：臼杵 勲氏(札幌学院大学人間科学科教授)

○令和5年度発掘調査予定一覧

事業者		事業名	市町村	遺跡名	面積(m ²)	備考
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	平行誘導路複線化整備事業	千歳市	美々4	900	
	室蘭開発建設部	樽前山火山砂防工事の内 有珠川遊砂地流木止工事	苫小牧市	有珠川7	1,790	
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構		北海道新幹線建設事業	長万部町	豊野3	300	
渡島総合振興局 函館建設管理部	事業室事業課	松前港線改良工事	松前町	福山城下町	854	
合計					3,844	

◆交通案内◆・JR大麻駅から、徒歩約20分 ・新さっぽろバスターミナル発

- ・JRバス(文京台線循環新83)・夕鉄バス(文教通西)に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
- ・JRバス・夕鉄バス(江別方面行き)に乗車「北翔大・札学院大前」下車、徒歩15分

編集・発行／公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

令和5年3月31日発行

〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231 FAX 011-386-3238

E-mail : mail@domaibun.or.jp URL <http://www.domaibun.or.jp/>